

活動： ディベートの実戦に挑戦。筋道を立てて考え表現する力・分かりやすく伝える力を確かめる。

## 1. ディベート(実戦)の前に

### 立論やアタックに対する質疑応答

- 質問をする時間です。自分たちの意見をいう時間ではありません。
- どちらの論点についてなのかをはっきりさせてから質問する。  
「ひとつめのアドバンテージ…に関してですが、〇は～ということですか？」  
「ふたつめのディスアドバンテージに関してですが、そのデータは…ですか？」

### アタック

- 自分たちの意見をいってもよい時間です。
- こちらの質問に対して相手が答えたことを踏まえて、こちらの考えを述べましょう。  
「アドバンテージ…に関して、私たちが～と聞いたとき、肯定側は…と答えました。しかし、私たちはこれを正しいとは思いません。なぜなら、…によれば、～であるというからです。」  
「従って、ひとつめのアドバンテージは（正しくない／弱い／重要ではない …）と考えます。」

### ディフェンス&サマリー

- 相手に攻撃された自分たちの立論が最後まで残る／残っていることを**審判に訴えます**。
- その為に、まずは**自分たちの論点について**守りのスピーチをします。  
「アドバンテージ…について、～と言われましたが、この点に関しては～ですので、このアドバンテージは成立します。」
- 次に、**相手の論点について**、自分たちがいかにうまく攻撃をし、相手の主張を崩したかを説明します。さらに、相手の論点と自分たちの論点を比べたときに、自分たちの論点のほうが、議論の末、残っている・もしくは、より客観性の高い主張であることをジャッジに対してアピールします。  
「ひとつめのディスアドバンテージについて、～と尋ねたとき、相手は信頼できるデータ（証拠）を持っていませんでした。従って、このディスアドバンテージが起きる可能性は極めて低いと考えます。」

## 2. 【判定の手順】

- 肯定・否定それぞれの論点が最後まで残ったか否か（どのくらい残ったか）を、○△×いずれかの記号で記入。

立論の条件が3つ揃っており アタック、ディフェンスで 立論の論点を  
組み立てに道筋があれば○ ↓ ↓ 論点が崩れなかったら○ ↓ 守れたら○ ↓

	肯定 AD 否定 DA	アタック	ディフェンス	サマリー	Winner
肯定	○	△	○	△	◎
否定	△	△	△	×	

これを見比べて、最終的に勝った方に◎をつける↑

ジャッジシート： 以下の通り公正にジャッジします。

ジャッジ署名 \_\_\_\_\_ 組 番 \_\_\_\_\_

肯定： 組 番( ) 否定： 組 番( )

	肯定 AD 否定 DA	アタック	ディフェンス	サマリー	Winner
肯定					
否定					

【注意】 選手に敬意を表し公正な判定をしましょう。引き分けはなしとします。

## ジャッジ（復習）

### 1. ジャッジ ディベートの試合を最初から最後まで聞き、納得できた方に判定を行う。

判定後、なぜ自分が肯定側（否定側）に投票（勝者として選ぶこと）したか解説する。

1-1 正解ではなく理由を解説 正しいと思っただけではなく「より納得できた」と判断した方に票を入れる。

1-2 選手の目的はジャッジを説得すること

1-3 ジャッジから票を獲得する方法 サマリーで議論を全て整理し、ジャッジに対して強くアピールする。

### 2. ジャッジがチェックすべき3つのポイント ① 議論が成立している理由を示しているか？

② 細かい争点に決着がつけられたか？

③ お互いの議論を比較しているか？

どちらの方が客観的な説得力が高いかを、判断材料や判定基準を元にして考え、ジャッジする。



### 3. ジャッジの仕事3つ

3-1 試合の振り返り・判定・アドバイス

3-2 判定の方法

①判定する理由になる議論がどれかを、まず明確にする。

メリット、デメリットをチェック。抑えるべきポイントは6か所であり、それぞれの主張と根拠。

その上でメリット、デメリットがゼロになった／限りなくゼロに近い／全体のバランスを見て著しく弱いと判断したらメリット、デメリットそのものを、判定の材料として採用しないということができる。

②争点に決着をつける

フローシートで、議論がよりやり取りされている箇所（争点になった箇所）の、個々の議論において、肯定側と否定側のどちらが論理的に優っているか、決着をつけます。

③議論が成立するか判断する

②の結果、メリット、デメリットの3要素（現状、過程、重要性/深刻性）が成立するかを判断。

④比較をする

メリット VS デメリット、どちらの方が大きいか、ディベーターの出した比較基準を元に判断を下す。

3-3 ジャッジをするにあたって気をつけなければならないこと

- ・ 論題への偏見を捨てる。
- ・ ディベーターへの個人的感情を捨てる。
- ・ プレゼンテーション能力を判定の根拠に持ち込まない。
- ・ 判定しようとする試合の内容だけを根拠とする。
- ・ 自分の知識を持ち込まない。
- ・ ルール違反に厳しく対処する。特に、ディフェンスでのニューアギュメントは無視する。
- ・ 判定の基準を述べる。

### 4. ディベーターが気をつけること

4-1 肯定側は論題の趣旨を十分検討し、論題を支持する立論をたてる。（立証責任）

4-2 否定側は、肯定側の立論の不備を指摘し、それを証明する。（反証責任） 準備内容の9割は捨てる。

4-3 反駁では、肯定側／否定側ともに、相手の主張のどこが理論的に弱いのか、足りないのかを指摘する。